

運動の楽しさを味わいながら、「わかった」「できた」へつなぎ、進んで運動に取り組む子どもの育成

大分県臼杵市立臼杵小学校

全校児童数	216名(男子108名 女子108名)		
全クラス数	12	教職員数	30名
体育専科教員訪問学校数			2校
訪問校	下南小・臼杵南小		
体育専科教員名		藤澤 貴紀	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体育アンケートの結果より

昨年度末アンケート「体育の授業が好き」という設問に肯定的回答をした子どもは94.1%

→運動の楽しさを味わい、体育好きな子どもを維持する

昨年度末アンケート「外遊びをしている」という設問に肯定的回答をした子どもは85.1%

→進んで外遊びをする子どもを増やす。

2 取組の計画

- (1)「わかった」「できた」を実感できる体育学習の充実
- (2)体育的環境の整備
- (3)健康的な生活を送る子どもの育成
- (4)市全体に実践を広げる取組

Do：実践内容

1 「わかった」「できた」を実感できる体育学習の充実

(1)授業展開のパターン化

- ①板書の工夫(学習の流れ、めあてとふりかえり)
- ②1人1台端末の活用
- ③教職員の指導力向上のためのチームティーチング

(2)「思考力、判断力、表現力等」の育成

- ①視点を明確にした見合い教え合いの場の設定
- ②自己の課題解決に向けて選べる場の設定
- ③選ぶ、試す、ふり返るのサイクルの確立

(3)みんなが活躍できる体育学習に向けた工夫

- ①課題の解決に向けて選ぶ場の工夫
→自己の能力に適した場や練習方法を選べる場を設定し、主体的に運動に取り組める子どもへ
- ②みんなが楽しめるルールの工夫
→誰にでもボール操作をしたり得点したりするチャンスがあるゲームのルールづくり
- ③主運動につながる動きづくりの設定
→毎時間のウォーミングアップによる運動の基礎感覚の習得(主運動につながる動きづくり・サーキット)

2 体育的環境の充実

(1)地域人材の活用

- ・古式泳法山内流教室
- ・タグラグビー教室
- ・元プロ野球選手による野球教室(里帰り授業)

(2)従来の持久走大会から楽しむランへの転換

(3)なわとび大会、長なわ大会の実施

(4)ドッジボールコート、ジャンピングボードの設置

3 健康的な生活を送る子どもの育成

(1)外遊びの推進「あそびんご」(1校1実践)

- ①遊びを自己決定し取り組む「あそびんご」
- ②読書の推進との連携実践「スポどくまつり」

(2)栄養教諭と連携した食育授業

4 市全体に実践を広げる取組

(1)臼杵市体力向上会議

第1回:体力テスト測定のポイント(臼杵小)

第2回:授業公開(臼杵小)2年生「跳び箱遊び」

第3回:授業公開(野津小)4年生「食育」

第4回:今年度のまとめと来年度に向けて(東中)

※第2回は体育専科公開授業、各校の先生が参観

(2)体育専科教員訪問校指導

下南小(3・4年)と臼杵南小(全学年)を対象に週2回の訪問校指導を行った。担任と連携を図りながら、指導方法の工夫・改善をしていくことができた。また、希望校への訪問指導を行うことができた。

(3)幼稚園児の小学校授業体験(体育) ※幼保こ小連携

園児(年長)を小学校に招き、体育の授業体験を実施した。単元は、第1学年の「体づくりの運動遊び」:多様な動きをつくる運動遊びを参考に行った。

●工夫したこと&苦労した点

- ①各学級担任と子どもたちが単元を通して、場やルール等をつくっていくようにした。実態をよく知る担任だからこそルールができ、同じ教材でもそれぞれ違う授業展開ができた。
- ②「一校一実践」では、外遊びを増やしたい視点と読書量を増やしたい視点に着目して連携し、「スポどくまつり」(あそびんごと読書ビンゴを1つのカードに)に取り組んだ。

Check：取組の成果

- ①2学期末アンケート「体育の授業が好き」という設定に対する肯定的回答をした子どもは95.5%(+1.4%)
→高い水準を維持できた。体育専科配置2年目で留任した教職員も多く、単元を全校でそろえるなど共通認識した上で、計画的に授業をすることができた。
- ②2学期末アンケート「外遊びをしている」という設問に対する肯定的回答をした子どもは94.6%(+9.5%)
→読書と連携したことで、運動に消極的な子どもも無理のない範囲で外遊びに取り組むことができた。
- ③楽しむランへの転換
→従来の持久走と比べて、前向きに取り組む子どもが増えた。ラップタイムから自己分析し、次の持久走に活かせるようにした(走る速さを調整する力がついた)。

Action：今後の課題

体育授業も一校一実践もおおむね成果を得た。しかし、「外遊び」は、子どもたちが飽きないよう、主体的に取り組めるアイデアや工夫が一層必要である。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

・これまでの取組を行っても、外遊びをすることがなかった子どもは一定数いた。読書の推進と連携をしたことで、その子どもたちを巻き込むことができたのはよかった。

かけ足・持久走の取組



ラップタイムが同じくらいになるように走る
→ラップタイムを聞きながら、速さを調整

地域人材の活用



タグラグビー教室
ラグビー協会の専門指導



野球教室(里帰り授業)
元プロ野球選手による指導

教職員の指導力向上(研修と実践)



体育実技研修
ゴール型(フットホッケー)



新採用の先生も
積極的に授業実践

栄養教諭と連携した食育授業



第4学年「朝食について考える」
担任と栄養教諭のT2指導

1校1実践「あそびんご」※読書と連携



ビンゴカードにある遊びを
友だちと声をかけ合って取り組む

園児(年長児)を小学校に招いての小学校授業体験 ※幼保こ小連携



多様な動きをつくる運動遊び
→園児からの遊びのアイデア



体育専科教員公開授業 第2学年「器械・器具を使つての運動遊び」:跳び箱を使った運動遊び



学習の見通し、本時のめあて
(めあてを子どもと共有)



着手の位置を考える
(タブレット端末の活用)



学んだことを活かす運動
(着手を視点に運動に取り組む)